

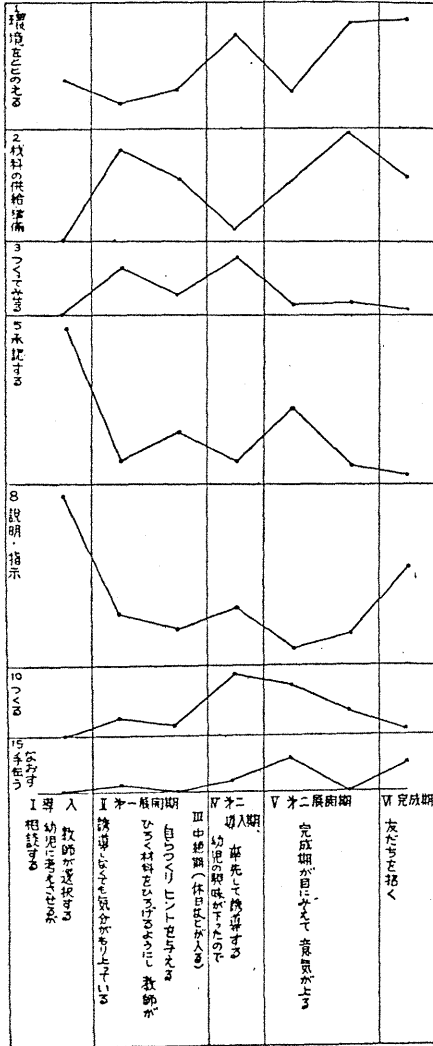
誘導保育の分析

お茶の水女子大学

津守 真
堀合 文子
赤池 溥子
網谷 夏海

一、目的
誘導保育「お店や」の最初からその終結にいたるまでの経過を観

表 誘導保育「お店や」の展開に伴う
教師の活動の変化



察記録し、誘導保育の特性と、誘導保育展開の要因を分析すること。
 二、対象と方法
 5才児のクラス、観察記録者3名（1名は教師の活動の記録、2名は子どもの記録） 約10日間

三、結果

- (1) 保育の経過とその段階10日間の経過を、表の下欄にみるように、6段階にわけることができる。保育の経過に伴う、お店やに参加する子どもの数の変化を参照すると、その状況は明らかになる。
- (2) 教師の活動11教師の活動を分類して次の20にわけることができる。
 1. 環境をととのえる
 2. 必要な材料の供給、準備
 3. つくってみせる
 4. ほめる
 5. 承認する
 6. ヒントをあたえる

7. 一しよに考える
 8. 説明、指示
 9. 考えさせる
 10. つくる
 11. 子どもの活動をみる
 12. 他のことをしている子どもをみる
 13. さそう
 14. 批評
 15. なおす、手伝う
 16. 道具の使い方
 17. 片づける
 18. 片づけさせる
 19. 明日に備える
 20. 仲裁
- (3) 保育経過と教師の頻度とを対応させてみると、教師の活動は保育経過の段階に応じて変化し、また、一日の保育の時間的経過に伴って変化する。

結論

誘導保育の展開には段階があり、教師の活動が保育展開の重要な要因である。また、教師の活動はきわめて多様であり、教師は子どもの活動の段階に応じて必要な行動をしている。

皆保育の調査

日本女子大学

村山貞雄

私達が調査したのは、神奈川県高部屋村である。

高部屋村は、村として、別に強制したわけでもなければ勧誘したわけでもないが、自然発生的に、全村保育が出来あがり、児童数は少ないときで八十名ぐらい、多いときは百三十名ぐらいになった。そして、この保育園を出ないで就学する者は、たとえあっても年一人か二人にすぎなかった。

このように全村保育ができた理由は、つぎのようである。

- 一、婦人会長をはじめ、婦人会の努力
- 二、愛育会の指定村として愛育会の協力をえたこと
- 三、小学校の援助、特に三名ないし五名の小学校の先生が保育園に出張して保育に当たったこと（これは違法行為であったが）
- 四、代々の村長の理解と努力
- 五、貧乏村で子どもが保育所に行くのと親が助かるので、父兄が協力的であったこと
- 六、保育所と小学校が隣接しているので、幼児が児童と一しよに通園できたこと

つぎに、皆保育の効果としては、つぎのことがあげられる。

一、村への効果

村の団結がたかまり、村民がよろこび、勤労意欲が向上した。村の青年が器用になった。保育園が全村の幼児の遊び場の中心になり、村から俗悪な歌がなくなった。幼児たちが一般に清潔になった。子供接種、入学告示などは保育園へ届けば、あとは家庭に一枚か二枚持つて行くだけで済み、非常にらくになった。

二、小学校への効果

すべての子どもを同じ歩調でとり扱うことができ、入学した日からガイダンスの必要がなく、直ちに授業の効果があがった。知能テストの結果や心身の問題の特質を、全員について知ることができ、身体検査以外は特別に何もしなくてよかった。入学した日から同級生はもとより上級生とも、仲よく手をつないで遊べた。

卒業生の思い出としては、近村の人にくらべて、幼児期のいろいろな思い出があり、このためにこの村の人は一般に明朗で団結的になっている。